

会社概要	
社 名（商 号）	株式会社 木曽路
設 立 年 月 日	昭和27年9月30日
本 社	名古屋市昭和区白金三丁目18番13号
資 本 金	100億56百万円
従 業 員 数	1,233名
主 な 事 業 内 容	料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店を営業
東 京 本 部	東京都港区芝三丁目43番15号 芝信三田ビル4F
大 阪 本 部	大阪府吹田市江坂町一丁目13番41号 SRビル江坂3F
名 古 屋 工 場	愛知県大府市一屋町三丁目36番地

株式の状況	
発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	25,913,889株 （うち自己株式 379,434株）
株主数	21,541名

■株主優待制度のご案内	
毎年3月31日及び9月30日現在の100株以上ご所有の株主の皆様に、 右記のように「株主ご優待券」を6月下旬と11月下旬にご送付致します。	
100株以上 500株未満	半期 1,600円相当（年間 3,200円相当）
500株以上1,000株未満	半期 8,000円相当（年間16,000円相当）
1,000株以上	半期 16,000円相当（年間32,000円相当）

株主メモ		お知らせ	
事 業 年 度	4月1日から翌年3月31日まで	■住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について	
定 時 株 主 総 会	6月下旬	株主様の口座のある証券会社にお申出ください。	
基 準 日	定時株主総会の議決権 3月31日	なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。	
株主名簿管理人 特別口座管理人 郵便物送付先	期末配当金 3月31日	■未払配当金の支払いについて	
	中間配当金 9月30日	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。	
	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	■「配当金計算書」について	
(電 話 照 会 先)	三井住友信託銀行株式会社	配当金支払の際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。	
	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号	* 確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。	
	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部		
公 告 掲 載 新 聞	電話 0120-782-031（フリーダイヤル）		
	取次事務は三井住友信託銀行株式会社の全国本支店で行っております。		
	日本経済新聞		

株式会社木曽路
〒466-8507
名古屋市昭和区白金三丁目18番13号
TEL 052-872-1811（代）

役員一覧	
代表取締役会長兼社長	吉 江 源 之
常 務 取 締 役	青 野 康 徳
取 締 役	仲 沢 栄 一
取 締 役	松 岡 利 朗
取 締 役	大 橋 浩 浩
社 外 取 締 役	松 井 常 芳
社 外 取 締 役	伊 藤 邦 昭
常 勤 監 査 役	鈴 木 敏 道
社 外 監 査 役	熊 田 登与子
社 外 監 査 役	平 野 善 得

IRカレンダー	
平成30年 7月20日	名証IRエキスポ2018 出展
平成30年 7月21日	
平成30年 7月下旬	平成31年3月期 第1四半期決算発表
平成30年10月下旬	平成31年3月期 第2四半期決算発表
平成30年11月下旬	第2四半期決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）
平成31年 1月下旬	平成31年3月期 第3四半期決算発表
平成31年 4月下旬	平成31年3月期 決算発表
平成31年 5月中旬	決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）
平成31年 6月下旬	第70回定時株主総会

100株以上 500株未満	半期 1,600円相当（年間 3,200円相当）
500株以上1,000株未満	半期 8,000円相当（年間16,000円相当）
1,000株以上	半期 16,000円相当（年間32,000円相当）

お知らせ	
■住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について	
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。	
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。	
■未払配当金の支払いについて	
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。	
■「配当金計算書」について	
配当金支払の際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。	
* 確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。	

UD FONT
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



第69期 株主通信

平成29年4月1日～平成30年3月31日



株式会社木曽路

証券コード：8160

お客様からいただいた信頼をもとに顧客指向経営を徹底し、 企業価値を高め社会的責任を担っていきます。

外食企業を取り巻く経営環境は益々厳しさを増しています。少子・高齢化を背景とした人口減少による外食市場規模の縮小や労働力の不足、原材料やエネルギーコストの上昇、環境への配慮と保護、お客様や従業員の安全性確保、高度情報化への対応、自然災害や情報漏洩など様々なリスクへの対応が必要です。また、消費者の食意識が成熟することにより嗜好やニーズの多様化が一層進み、価値指向、健康指向、安全指向は一段と強まっています。

このような環境変化の中で当社は、「よりおいしい料理をお値打ちに真心を込めたサービスで提供し、多くの人々に外食の楽しさを感じていただく」という基本理念を当社の優位性として磨き上げ、新たなフードビジネスモデルの構築に邁進します。そのために当社は、企業倫理・法令遵守の課題に真摯に取り組むのはもちろんのこと、全社を挙げて経営・調理・接客の各分野の能力向上に努め、新商品開発や新事業・新業態への進出、新技術の活用などに不断に挑戦し業績の伸展と企業価値の向上を追求します。また、食の安全性確保や環境保護等の課題に取り組む社会的責任を全うする方針です。

木曽路はここに企業としての存在意義を見出し、未来を拓いていきます。

代表取締役会長兼社長

吉江源之

当期の経営成績の概況

当事業年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）におけるわが国経済は、堅調な企業収益や雇用環境の改善、好調な海外経済などから緩やかな回復基調で推移しました。その一方で可処分所得の伸び悩みや物価上昇懸念などから消費に力強さはなく、また、国内外の政治・経済動向の不確実性などの経済リスク懸念から依然先行きは不透明な状況で推移しました。

外食業界におきましては、天候不順や物流コストの上昇などによる原材料価格の上昇、人手不足による人件費の増加、また、お客様の嗜好の多様化や食の安全・安心への対応など依然厳しい経営環境で推移しております。

このような経営環境の中で当社は、マーケティングによりお客様の嗜好や期待を把握し、強みである商品力及び接客力を強化するとともに、原材料の仕入から消耗品などの購入の見直しを継続しました。また、営業時間の短縮、勤務シフトの見直しやＩＴ化・機械化を進め、生産性の向上とともに働きやすい職場づくりに努めました。

店舗展開、改築・改装につきましては、1店舗の新規出店、2店舗の退店を実施し、その結果、当事業年度末の店舗数は162店舗（前事業年度比1店舗減少）となりました。

営業面では、歓送迎会の予約獲得、当社の強みであるハレの日需要の取り込みを強化するとともに、多様化するお客様ニーズにお応えするため料理の品質向上やメニューの見直しに取り組みしました。また、昨年10月より25年ぶりにＴＶＣＭを刷新し、これまで以上に“木曽路”ブランドの認知を高めるとともに各種イベントの告知を行ってまいりました。新ＣＭでは、祝事をはじめとする、これまで肅々と継承してきた日本伝統文化を、外国人の目線を通して描いています。

費用面では、食材やメニューの見直し、ロス管理により原価率を改善し、賞与や募集費が増加する一方で出退勤時間・人員配置など勤務シフトの見直しにより人件費率が低下しました。また、広告・販促方法の見直しや消耗品などの購入見直しを継続し、効率化、最適化に努めました。

また、ご来店されたお客様に安心してお食事を楽しんで頂くこと、地域社会への貢献を目的として、「ＡＥＤ（自動体外式除細動器）」をしゃ

ぶしゃぶ・日本料理の「木曽路」全店、本社及び名古屋工場の120箇所に設置いたしました。

この結果、当事業年度の売上高は444億38百万円（前事業年度比0.2%増加）、営業利益は22億29百万円（同108.1%増加）、経常利益は22億79百万円（同92.2%増加）となりました。また、特別利益として、投資有価証券売却益等50百万円(前事業年度は2億2百万円)、特別損失として、減損損失等1億94百万円(同2億97百万円)を計上しました。

以上の結果、当期純利益13億31百万円（同5億76百万円）となりました。1株当たり当期純利益は51.60円（同1株当たり当期純利益22.30円）となりました。

今後の見通し

今後の見通しにつきましては、雇用・所得環境の改善から消費者マインドは底堅く、また堅調な企業収益などから緩やかな景気回復基調にある一方で、内外の情勢による急激な為替や株価変動などから個人消費、企業収益及び海外経済への波及懸念が残り、依然として不透明な経済環境が続くと予想されます。

このような経営環境の中で、当社は、食の安全・安心を第一にするとともに更なるコンプライアンスの徹底を追求してまいります。そして、既存店を伸長させるべく、マーケティングによりお客様の嗜好に即した商品開発や販売促進活動とともにＱＳＣ（クオリティ・サービス・クリンリネス）の向上により来店客数増加、売上高の増加を図ります。また、ワークスケジュールの精度向上、個々の業務見直しなどによりプライムコストを適正管理し、ＩＴ化・機械化などの推進により生産性向上と収益基盤を強化してまいります。

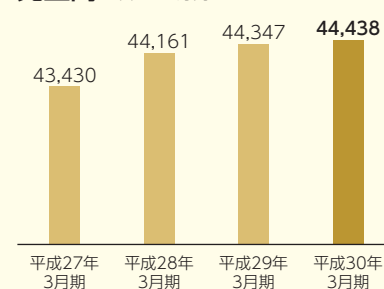
更に積極的な出店や新たな業態開発などの実施により成長への基盤作りを行ってまいります。

これらの改善・改革により、次期の業績につきましては、売上高は455億円（前事業年度比2.4%増加）、営業利益は24億60百万円（同10.4%増加）、経常利益は25億20百万円（同10.6%増加）、当期純利益は14億20百万円（同6.7%増加）とする計画であります。

財務ハイライト

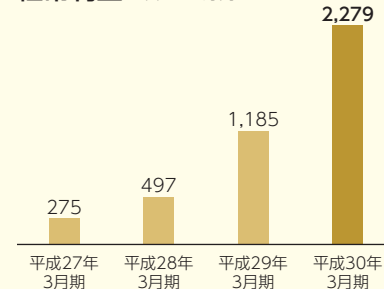
売上高

単位：百万円



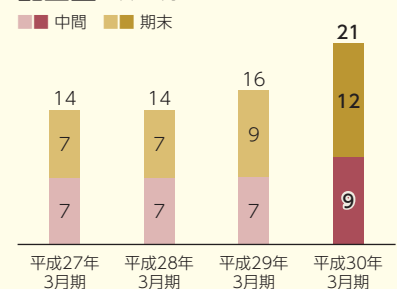
経常利益

単位：百万円



配当金

単位：円



当期の主な取り組み・トピックス



しゃぶしゃぶ・日本料理
木曽路

<しゃぶしゃぶ祭りを開催>

皆様に大好評をいただいております木曽路恒例の「しゃぶしゃぶ祭り」を平成29年度は10月と2月の2回、開催いたしました。しゃぶしゃぶ祭り期間中は、日頃のご愛顧に感謝し木曽路全店舗にて国産牛ロース肉のしゃぶしゃぶコースを特別価格1人前1,800円(税込1,944円)で提供するなどお得なイベントを開催いたしました。



居酒屋 素材屋

<旬の素材にこだわり、宴会メニューも充実>

旬の食材にこだわった手作りの季節メニューを地区別に30～45日期间で販売し、好評をいただいております。宴会コースでは、鶏ガラからスープを取った「鶏塩ちゃんこ」を開発し、多くのお客様にお楽しみいただいております。

今後もお客様のニーズやご要望、トレンドに合わせたメニュー開発を行ってまいります。



鶏料理 とりかく

<ハッピーアワーなど様々なキャンペーンを実施>

毎日4時間以上かけて炊く鶏ガラスープ、1本1本串打ちしている焼き鳥など手間を惜まず店内仕込みに力を入れております。ブランドメニューのラインナップを刷新、写真も増やしてお客様に分かりやすいメニューへと改変しました。また、主力商品の鶏鍋を期間限定で半額提供、ハッピーアワーの実施など新キャンペーンも好評でした。今後は店舗の立地やお客様ニーズに合わせた店舗別のメニュー開発など、より一層ご満足いただける店づくりを進めてまいります。



木曽路グループ

<機械化の推進>

調理の品質維持と向上を目的として、スチームコンベクションオープンや多機能分子調理器(Dr. Fry)などを順次導入し、積極的に機械化を推し進めました。この結果、業務の合理化・効率化により生産性が向上し、深刻な人手不足の解消にもつながる重要な取り組みになっています。今後も更なる改善を進め、商品とサービスの向上により【日本一質の高い外食企業】を目指してまいります。



スチームコンベクションオープン



しゃぶしゃぶ・日本料理
木曽路

<かにフェアを開催>

平成30年1月16日～2月18日までの期間限定で、「かにフェア」を開催いたしました。さまざまな蟹料理を堪能できる「かにすき鍋コース」はもちろん、「蟹味噌甲羅焼き」や「ずわい蟹の天婦羅」など木曽路が厳選した旬の蟹を、様々なお料理に仕上げ販売いたしました。冬の時期にだけお楽しみいただける贅沢な味わいをご堪能いただきました。



焼肉 じゃんじゃん亭

<平成29年4月1日 一宮店オープン！>

愛知県一宮市に『じゃんじゃん亭一宮店』が平成29年4月1日(土)にグランドオープンいたしました。タッチパネル導入によりお席で楽々注文できます。全店のブランドメニューも一新をはかり、より安くて美味しい焼肉を皆様にご楽しむことを目指しました。今後も新規出店やブランドとしての展開を進めてまいります。



和食しゃぶしゃぶ 鈴のれん

<旬の御膳メニューを多数投入>

和食レストラン鈴のれんでは、「旬」にこだわり「天ぷら」や「炊き込みご飯」をふんだんに配した御膳メニューを年に6回投入し、政策の柱といたしました。またお座敷の需要を高めるべく、慶事・法事メニューの内容を一新するとともに、宴会コースではお客様のニーズが高かった一人鍋の付いた「宴会会席コース」を導入しました。宴会で一人鍋が食べられる事で人気が高まり、様々なお集まりの場面でのご予約が増えました。



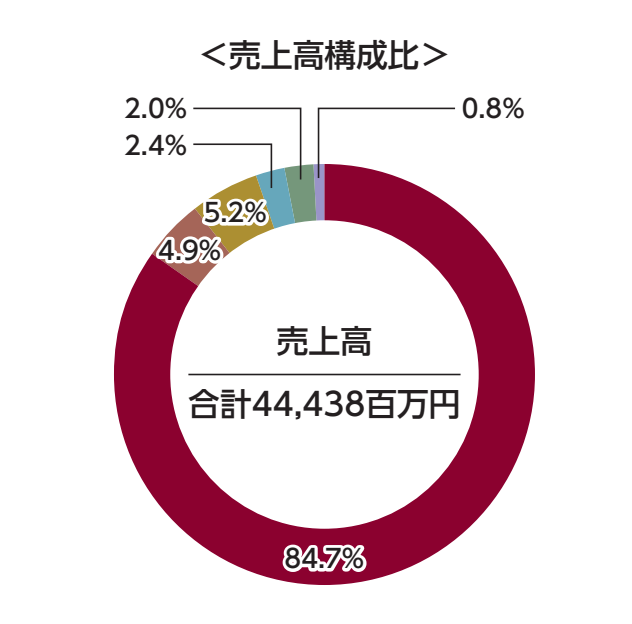
木曽路グループ

<CSR活動のご報告>

平成30年1月15日～2月28日までの間、CSR活動の一環として、名古屋市内の児童養護施設の児童および引率職員の皆様(全13施設、延べ約770名)を「焼肉じゃんじゃん亭」へご招待しました。できるだけたくさんの児童にご参加していただくため、ご招待日に期間を設けて実施しました。食べ放題にドリンクバーを合わせてご提供しました。今後も地域の皆様へ貢献できるよう努めてまいります。



部門別の概況



じゃんじゃん亭部門

1店舗の新規出店により、平成30年3月末店舗数は14店舗となりました。

営業面では、「手切り、熟成肉、黒毛和牛」にこだわり、食べ放題メニューの拡販とスピード提供、先手のサービスに取り組みました。また、法人や学生のイベントなどに合わせたメルマガの配信や学生応援企画など予約獲得活動に努めました。

売上高 単位：百万円

平成29年3月期	平成30年3月期
2,099	2,319

とりかく部門

1店舗の退店により、平成30年3月末店舗数は9店舗となりました。

営業面では、「手作り」「鶏」にこだわった料理と旬の逸品料理の販売を行い、また鶏料理の醍醐味と季節に合わせた食材の宴会コース、お客様ニーズの高い飲み放題メニューの充実を図り来店客数の増加に努めました。

売上高 単位：百万円

平成29年3月期	平成30年3月期
1,122	1,039

木曽路部門

1店舗の退店により、平成30年3月末店舗数は117店舗となりました。

営業面では、顧客の裾野拡大を試みる新提案として「黒豚しゃぶしゃぶ」の販売や、季節ごとのイベントを実施するとともに、歓送迎会・忘新年会などの法人顧客へのアプローチを実施しました。また、25年ぶりにTVCMを刷新し、「美味しいしゃぶしゃぶを、心地良い空間で楽しんでいただき、少し贅沢な時間を過ごしていただきたい」そんな木曽路のブランドプロミスを新CMで訴求しました。

売上高 単位：百万円

平成29年3月期	平成30年3月期
37,541	37,645

素材屋部門

平成30年3月末店舗数は14店舗であります。

営業面では、味噌串かつ・手羽先のから揚げなどの名古屋めしやこだわりの炭火串焼き、また自家製の惣菜料理や旬の食材を活かした季節メニューの販売、様々な宴会のニーズにお応えするための個室やお値打ちなコース料理をご用意し営業活動を行いました。

売上高 単位：百万円

平成29年3月期	平成30年3月期
2,216	2,169

鈴のれん部門

平成30年3月末店舗数は6店舗であります。

営業面では、御膳や季節毎のメニューを充実し、各種宴会メニューやしゃぶしゃぶまたはすきやきの食べ放題メニューをご用意、また慶弔などの行事に対応したメニューと人数に合わせた多様なお席を準備し、来店客数の増加に努めました。

売上高 単位：百万円

平成29年3月期	平成30年3月期
934	895

その他

ワイン食堂の「ウノ」、九州味巡りの「このこ」、外販（しぐれ煮、胡麻だれ類）、不動産賃貸等であります。

売上高 単位：百万円

平成29年3月期	平成30年3月期
434	368

財務諸表

貸借対照表（要旨）			単位：百万円
科目	当期末 (平成30年3月31日)	前期末 (平成29年3月31日)	
資産の部			
流動資産	18,012	16,629	
固定資産	20,430	21,103	
有形固定資産	12,348	13,161	
無形固定資産	199	120	
投資その他の資産	7,882	7,821	
資産合計	38,442	37,732	
負債の部			
流動負債	6,617	5,945	
固定負債	2,899	2,919	
負債合計	9,517	8,864	
純資産の部			
株主資本	28,648	28,585	
資本金	10,056	10,056	
資本剰余金	9,875	9,875	
利益剰余金	9,642	8,775	
自己株式	△925	△122	
評価・換算差額等	276	283	
純資産合計	28,925	28,868	
負債純資産合計	38,442	37,732	

POINT 貸借対照表

総資産は、有形固定資産などが減少する一方で、現金及び預金が増加しました。

負債は、未払い法人税等及び未払い費用が増加しました。

純資産は、剰余金の配当、自己株式の取得の一方で、当期純利益の計上により増加しました。

以上の結果、自己資本比率は75.2%、1株当たり純資産は1,132.80円となりました。

損益計算書（要旨）			単位：百万円
科目	当期 (平成29年4月1日～ 平成30年3月31日)	前期 (平成28年4月1日～ 平成29年3月31日)	
売上高	44,438	44,347	
売上原価	14,104	14,597	
売上総利益	30,334	29,750	
販売費及び一般管理費	28,105	28,679	
営業利益	2,229	1,071	
営業外収益	68	133	
営業外費用	18	18	
経常利益	2,279	1,185	
特別利益	50	202	
特別損失	194	297	
税引前当期純利益	2,134	1,091	
法人税等合計	803	515	
当期純利益	1,331	576	

キャッシュ・フロー計算書（要旨）			単位：百万円
科目	当期 (平成29年4月1日～ 平成30年3月31日)	前期 (平成28年4月1日～ 平成29年3月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,529	1,398	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△456	△611	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,376	△462	
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,696	324	
現金及び現金同等物の期首残高	13,727	13,403	
現金及び現金同等物の期末残高	15,424	13,727	

POINT キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるキャッシュ・フローは、流入超過となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に新規出店・改装等による投資、投資有価証券の取得及び定期預金の解約等により流出超過となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済、配当金の支払及び自己株式の取得等で流出超過となりました。